

達成度：H26.3.31 の自己評価

- 5 目標を完全に達成した。
- 4 目標を概ね達成した。
- 3 目標を一部達成した。
- 2 目標をほとんど達成できなかった。
- 1 目標をまったく達成できなかった。

## 住民協働課の目標（平成25年度）自己評価書

住民協働課長 岡野 義広

個別事業とその目標	達成度	目標達成の効果又は達成できなかった理由等
<p><b>1 住民活動団体の支援</b></p> <p>地域の活性化や課題等に取り組むための、住民団体等の自由で自発的な公益活動に対する住民提案型の住民公益活動補助金の交付や、井戸端（酒々井町交流サロン）・ミーティングルームなど活動拠点の支援により住民活動団体の活性化を図るとともに、住民活動団体交流会を通じてその活動状況を広め、団体どうしの連携強化を図ります。</p> <p>また、住民活動団体のNPO化に向けた支援を強化します。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民公益活動補助金を5団体へ交付した。</li> <li>・交流サロンの団体利用率が上昇した。</li> <li>・住民活動団体交流会を開催し、16名、10団体の参加があった。</li> <li>・「輝く創年とコミュニティ・フォーラム」を開催し、分科会では、町内外の先進事例を学び、質疑応答等が交わされ、まちづくり意識の向上や、他市町村との住民交流も図られた。また、基調講演、シンポジウムでは、様々な提言をいただき今後の構想や活動へのヒントとなった。</li> <li>・生涯学習課と「盛年式」を開催し、住民活動団体の紹介等を行う予定だったが、雪のため中止となった。</li> <li>・「学びとまちづくりフォーラムin佐野」に参加し（住民活動団体から5名、青樹堂師範塾から4名）、他市の取り組みを学ぶとともに交流を深め、町のPRや団体どうしの連携を図ることができた。</li> </ul>
<p><b>2 住みよい地域づくりの推進</b></p> <p>もっとも身近な住民組織の自治会等と行政は、地域住民の住みよい環境をつくるという目的を共有しており、住民と行政との協働による地域づくりを一層推進していくため、</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域に地域担当員を配置し、住民と行政の緊密な関係が築けた。</li> <li>・各自治会に自治振興助成金を交付した。（36団体）</li> </ul>

<p>自治会等の運営について支援します。 また、地域担当員が自治会等との連携が図れるよう支援します。</p> <p><b>3 協働意識の普及と啓発</b> 公共や公益を担い支えるのは行政だけではなく、住民等との協働のうえに成り立つという意識を持ち、協働のまちづくりへの理解を深めるための講演会や研修会を実施します。 また、住民と行政の協働活動として、公園等愛護活動推進事業や資材等支給事業を推進します。</p> <p><b>4 高齢者・団塊世代の生きがい就業支援</b> 高齢者や団塊の世代の社会参加と生きがい就労を目的とした「酒々井町シルバー人材センター」の運営を支援します。</p> <p><b>5 男女共同参画社会形成の促進</b> 男女共同参画社会形成についての理解を深めるため、県から委嘱される地域推進員と協力して啓発事業や情報提供を行い、男女共同参画社会形成への意識を高めていきます。</p> <p><b>6 地区集会所等への補助</b> 各地区の集会所等に対して管理費、修繕費、増改築費について助成します。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行政連絡員を各地域（39地区）で委嘱し、自治会と行政のパイプ役として活動していただいた。</li> <li>・協働のまちづくりを推進するため、講師（市民社会パートナーズ代表 庄嶋孝広氏、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授 粉川一朗氏、聖徳大学名誉教授 福留強氏、長崎市総務局企画財政部市民協働推進室長 原田宏子氏）による協働のまちづくり研修会を4回開催した。</li> <li>・住民と行政の協働活動として、①地域の公園等の環境美化を目的とした公園等愛護活動を実施、公園数14か所12団体の協力を得られました。</li> </ul> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金として140万円を交付した。</li> </ul> <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県男女共同参画地域推進員北総地域セミナーの参加運営協力をした。</li> </ul> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区集会所に対して管理費補助金を交付した。（29施設）</li> <li>・新堀青年館、中央台集会所、下宿青年館、東酒々井コミュニティセンター、トヶ崎自治会館（計5か所）に修繕補助金を交付した。</li> </ul>
--	---

<p><b>7 チャレンジ目標</b></p> <p>① 協働のまちづくりのあり方の指針となる「協働のまちづくり指針」を検討します。</p> <p>② 酒々井ブランド事業を、町商工会・郷土を愛する団体や国の雇用創出事業を導入し企業（起業）と協働し展開します。</p> <p>③ 資材支給事業について、昨年からの協議のあった自治会・団体などと協働し必要な資材・機材の提供を行います。</p>	<p><b>4</b></p> <p>・協働のまちづくりを推進するため、講師（市民社会パートナーズ代表 庄嶋孝広氏、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授 粉川一朗氏、聖徳大学名誉教授 福留強氏、長崎市総務局企画財政部市民協働推進室室長 原田宏子氏）による協働のまちづくり研修会を4回開催した。</p> <p><b>3</b></p> <p>・商工会、郷土愛護団体、農業団体が「ブランド創出」という目標に協働で取り組みをする。昨年4月開通の酒々井ICや酒々井アウトレットモール開業に合せ、酒々井町を訪れる方々に対し、町の商工業や飲食、観光、特産品などの情報を広く紹介するタウン情報とグルメマップを作成し、従来の町の産品や町ブランド商品（ゆずサイダー、酒粕カレー、力味噌など）を販売し、地域産業の発展と町のイメージアップに寄与した。併せて、本事業の導入により失業者1名の雇用が実現する。また平成25年10月から国の雇用創出事業（起業支援型10年以内に起業した会社・法人）を導入し町の特産品を栽培し商品化を目指す協働事業（平成26年9月末までの1年間、雇用2名）を展開している。</p> <p><b>4</b></p> <p>・町が資材及び機材等を支給し、住民自らが施行する資材支給事業は、昨年の大雨で崩落した水路（延長300m）の護岸修復とやはり昨年の台風大雨で私道の路肩及び法面が幅1.5m（高さ1.0m）に渡り崩落したの路面の修復した事業で、両地域とも本事業の導入により格段の環境改善と併せて地域連帯感の向上に繋がったものと考えます。</p>
--	---

<p>④ 里山林の放置竹林などの環境問題解決を目的に破碎機材を購入し、郷土愛護団体と協働し環境改善を図ります。</p> <p>⑤ 大鷲青年館の老朽化が進んでいることから、地元自治会と改修・改築について協議を進めます。また、各地区集会所等の老朽化も進んでいることから、施設の耐震診断助成制度を新設します。</p> <p>⑥ 男女共同参画社会形成への意識を高めるため、県と共催し講演会を実施します。</p> <p>⑦ 自治会活動の円滑な運営に参考となるマニュアルを作成します。</p>	<p>4</p> <p>5</p> <p>4</p> <p>3</p>	<p>町内の荒廃した山林や竹林の保全を図るため、樹木粉碎機（直径18cmまで粉碎可能）を購入、環境保全団体や里山愛護団体と協働し環境保全に取り組む。</p> <p>大鷲の青年館の建替えについて、地元自治会と協議をした結果、平成26年度に建替えが実施されることになり、予算措置をしました。また、施設の耐震診断助成制度も新設し、3か所において実施した。（上本佐倉五良青年館、中川青年館、トケ崎自治会館）なお、トケ崎自治会館については、耐震補強の修繕も実施し、助成した。</p> <p>千葉県男女共同参画地域推進員の会議及びセミナーに参加協力した。また、平成26年1月にプリミエール酒々井を会場に、県と共催し講演会を実施し、男女共同参画社会について啓発を進めることができた。</p> <p>自治会活動運営マニュアル作成に向けて、各種資料等の収集を行い、準備を進めた。</p>
--	-------------------------------------	--